


日立ジョンソンコントロールズ空調  
と関連会社で働く  
人のネットワーク



# オアシス

2023年6・7月

No. 99

発行：オアシス

編集委員会

連絡先：多田義幸

TEL

090-9121-0602

# 軍備増強、敵基地攻撃能力に反対を

今年の4月29日、連合は第94回メーデー中央大会を東京・代々木公園において開催しました。このメーデーには、現職首相としては安倍元首相以来9年ぶりに岸田首相が参加しました。首相の参加に対して連合の芳野会長は「(首相の出席は)大変光栄だ」と述べました。

## 軍国主義化の指摘が

米誌タイムは「日本の選択」と題し、岸田氏が「長年の平和主義を捨て去り、自国を真の軍事大国にすることを望んでいる」と紹介しました。そして日本の軍事力強化が周辺の安全保障環境を不安定化させ、中国との摩擦を強める恐れにも言及し、「岸田氏の長年の公約である核なき世界への努力と相いれないと考える人々もいる」と指摘しました。

この記事に対して岸田首相は、「記事の本身と見出しがあまりに違うのではないか」と述べ、在ニューヨーク総領事館から発行元へ問い合わせをしたと明かしました。その結果、タイムは電子版の見出しを「国際社会でより積極的な役割を与えようとしている」と差し替えました。

## 軍備増強は本当なのか

それでは、軍備増強路線は本当なのかでしょうか。昨年来、岸田内閣が対応してきたこととして、次にあげるいくつかの項目があります。安全保障関連三文書の改定を閣議決定し、防衛力整備を名目として防衛関連費を国内総生産(GDP)比2%に引き上げるとしました。また、敵基地攻撃能力の保有を明言し、米国製巡

航ミサイル「トマホーク」の購入を進めています。

## 敵基地攻撃能力の影響

軍備の増強とともに、危険な影響があるのが敵基地攻撃能力です。これは、これまでの日本の方針である「専守防衛」つまり自国が他国から攻撃を受けた際は、自衛のために軍事力行使するという方針に反し、他国からの攻撃がなくても敵基地に対して攻撃するという変更です。敵基地攻撃能力を解禁することで、これからは「攻撃の意思あり」となり、これは戦後日本が構築してきた平和主義を切り崩すこととなります。その結果、軍拡という負のスパイラルを引き起こしてしまいます。敵基地攻撃を行っても、相手国のすべての基地をつぶすことはできません。必ず報復がやってくる。そうなれば、日本全土が戦場になる危険があります。

## 積極的に反戦平和を

このように軍備増強路線を進めている岸田首相に対して、「とても光栄」という言葉はあり得ません。多くの労働組合は、過去の太平洋戦争による反省から、積極的に反戦平和を訴えてきました。その労働組合のトップが軍事増強を凶る政府に対し歓迎するのは、これまでの労働組合が取り組んできたことに反する行為であり、許されるものではありません。軍備増強、敵基地攻撃能力の構築を許さず、働く者の生活と命を守るためにも、戦争への道に反対することが求められています。